

令和3年度

自己評価報告書

学校法人 平野学園

ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校

1 学校の教育目的

当校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、実社会に適した専門の知識技能を授けると共に、一般教養を高めるために服装、商業実務および文化教養に関する教育を行う。

2 本年度定めた重点的に取り組む事項

(1) 基本的な生活習慣の確立

○授業の開始、終了時の挨拶の励行、社会人にふさわしいことば遣いの指導

○遅刻等時間を守る指導

○掃除・整理整頓など生活環境を整える指導

(2) 資格検定指導の充実

○検定にチャレンジし、合格率をあげる。

○資格取得を視野に置いた授業の展開

(3) 就職指導の充実と連携強化

○卒業までを見通した就職指導の実践

○ハローワーク（大垣、名古屋）や関係企業との連携

(4) 学生募集

○学校ガイダンス、オープンキャンパスなどの充実

○留学生や留学システム、ビザ更新についての調査・研究と募集

3 評価項目の達成と取組状況

評価基準				
適切	4	ほぼ適切	3	やや不適切 2 不適切 1

(1) 教育理念・目標・育人人材等

評価項目	自己評価	
学校の理念・目的・育人人材像は定められているか。（専門分野の特性が明確になっているか。）	3	学園目標のもと、職員一丸となって遂行している。
学校における職業教育の特色は明確か	3	ゴールを明確化し、技術・人間教育も行う。
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか。	3	不況・コロナ禍の中でも普遍的な技術や生活態度を身に付け社会に貢献できる学生の育成を目指している。
学校の理念、目的、育人人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。	2	日本人にはよく浸透していると思われるが、留学生にはまだ伝えきれていない。
各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3	教育課程編成委員会でのご意見を踏まえ、教育課程・授業内容を改定している。

① 課題等

○今年度も、深刻なコロナ禍にみまわれ、入学式は行えたものの、数回休校としてオンラインで授業をせざるを得なかった。しかし様々な国（から受け入れた留学生が「日本であるいは母国で活躍できるようにしよう」という使命感を持って、職員一同学生指導を行ってきた。コロナ禍の中で社会情勢の変化が激しく、また学生の資質や希望も多様なため、一様な指導が困難で、特に本格的な受け入れ2年目で学習意欲のやや弱い学生が増え、学生指導の手法にさらなる工夫が必要である。

② 今後の改善方策

○「就職に向けた取り組み」が本人の希望とマッチングしていない。当校の理念が具現化するのが本来は就職であるが、実際の就職は必ずしも学生の希望通りにはならない。来年度以降の特定技能の拡充が期待されるので、それに向けて教科の内容を精選していく。

○企業や業界との連携をさらに強め、どのような人材が必要か研究し、教育課程に反映していく。留学生の就職に対しても調査していく。

○留学生それぞれの国の文化を尊重しつつ、当学園の一員である誇りをもたせ、日本に溶け込むことができる学生指導を行う。

(2) 学校運営

評価項目	自己評価	
目的等に沿った運営方針が策定されているか。	3	学園全体の運営方針があり、それを堅持している。
運営方針に沿った事業計画が策定されているか。	2	年間指導計画に基づいて運営しているが、コロナ禍で大いに予定がくるったところがあった。
運営方針や意思決定機能は、規則等において明確化されているか。	3	学則があり、職員会議等において決定されている。
人事、給与に関する規定等は整備されているか。	4	学園としての規定が設けてある。
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか。	3	現場のニーズにあわせて対処されている。
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。	3	法令遵守は特に当校が大切にしているところである。今年度はコロナ対策に特に万全を期した。
教育活動等に関する情報公開が適切にされているか	4	HP や FB で積極的に発信している。高校や日本語学校に学生の活躍のようすを広報している。
情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	2	留学生の学費徴収やビザ更新システムに課題がある。

① 課題等

○職員の人数がふえてきたので、連絡・相談などのコミュニケーションがむづかしくなってきた。学生の遅刻欠席等連絡事項がとても多いので、ホワイトボードに書いたり、ラインで情報共有を行っている。非常勤職員との連携に課題がある。今後も授業ノートなど丁寧に書いていただいているのでさらに連携していきたい。

○HP に関して、わかりやすい HP であるが、情報を更新していく頻度と、携帯端末からすぐに見てもらうことに難がある。一方、FB やインスタグラムを毎日のように更新しているので、フォロワーが増えている。

② 今後の改善方策

○情報システムとして、据え置きプロジェクターを設置したので、ビジュアルな授業を行っている。(縫物の手元を映す、最新のファッションを見せる等) さらに活用していく。

○非常勤講師に対しては学生の動向等をこまめに報告し、更に連携を密に図る。ファッション科にはティームティーチングを導入し、困難を感じている学生の支援を行っている。情報デザイン科は卒業生がアルバイトで手助けをしてくれ、学生の支援から消毒まで行ってきた。

○来年度、留学生の中で特に優秀な学生をアシスタントとして雇用するので、授業の助手だけでなく、広報の面でも大いに期待している。

(3) 教育活動

評価項目	自己評価	
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。	4	教育課程編成委員会のご意見を踏まえ、毎年改定し、少しでも理想に近づけている。
教育理念、人材育成像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか。	2	留学生のレベルとモチベーションが低く、教科内容の理解と定着がむづかしい。
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか。	3	基本から応用・実践へ、順序だてて編成している。
キャリア教育・実践的な職業活動の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。	3	授業中の教員見学や訪問客の出入りを自由にして開かれた教室としている。業界の方の指導も受けている。
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか。	3	教育課程編成委員会が年2回おこなわれ、指導を受けている。
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか。	2	コロナ禍の中、店舗訪問等が十分行えなかった。
授業評価の実施・評価体制はあるか	3	お互いの授業の自由見学と講評、非常勤講師の先生の授業ノート記入等行っている。
職業教育に対する外部関係者からの評価は受け入れているか。	3	学校関係者評価委員会にて評価を受けている。
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか。	4	前後期試験や平常点、成果物、発表会を通して評価している。
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。	3	当校では特に力をいれている。留学生に対してどのような体制ができるかが課題である。
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員確保をしているか。	3	留学生に対しては、アシスタントをつけてフォローしている。
関連分野における業界等の連携において優れた教員（本務・兼務を含む）を確保するなどマネジメントが行われているか。	2	特に情報デザイン科では現役SEを招くなどしている。ただし指導法に難があるので、必ずしも学生の状況にマッチしているとは言えない。
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3	セミナーや清陵高校との授業研究を通して教員自身が成長できるようにしている。
職員の能力開発のための研修等が行われているか。	3	今年度ズームやWEBでの研修を行った。特に全員がUDEMY（オンラインでの専門科目研修）をうけた。大角講師による研修をうけた。

① 課題等

- 科目の精選を行い、一部単位を減らして、学生のニーズにあうように教育課程を編成する。
- 「職業実践専門課程」の認定を受けたので、認定校にふさわしい授業を行い、一般にも認められるように広報していきたい。

② 今後の改善方策

- 学生へのモチベーションとして、「発表」と「検定」を柱としたい。ファッション科はファッションショーがあるが、情報デザイン科は学園祭とOFFだけであるので、授業内でも発表したり、HPに掲載するなどして学生の

意欲を高めたい。また学生の技術を評価する独自の「検定」を設けて、技術水準を客観的に評価できるようにしたい。

(4) 教育成果

評価項目	自己評価	
就職率の向上が図られているか。	2	コロナ禍のため十分な就職活動ができなかった。 また留学生の就職は相当困難である。
資格取得の向上が図られているか。	2	ファッション科は十分な資格をとることができた。留学生用のスモールステップの独自資格（検定）が必要である。
退学率の低減が図られているか。	2	留学生について十分な支援ができず、学費不足で退学した学生がでた。
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	2	卒業生が職場のようすを「講演」してくれた。留学生の卒業生とはなかなか連絡がとれなかったが、来年度は活躍している卒業生の動向を把握して、在校生に伝えていきたい。
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか。	3	卒業生がよく訪問してくれるので雑談を含めて職場でのようすを聞き取り、現役学生の指導に役立てている。

① 課題等

○専修学校においては、「出口指導」は最も大切なものであり、毎日の授業や地道な生活指導の成果が、就職率の向上であり、資格取得である、という意識で指導をしている。コロナ禍の中、学生は就職活動をまじめに行った結果、日本人については3月1日現在、100%の就職率を達成した。しかし留学生については思うように就職はできていない。当校で新たに専攻科を設置したので、さらに学習をさせ、来年度の就職に結び付けていきたい。

○ファッション科は色彩検定・販売検定など多数の検定に合格、情報デザイン科はマイクロソフト検定や秘書検定を取得した。コンテストは多くが感染予防のために中止となってしまったのが残念であった。特に大垣ファッションフェスティバルが中止となり発表の場がなくなったが、代替措置としてファッションショーやコンテストの結果発表を別にビデオ収録し、YouTubeで公開、また卒業式の時に披露して、2年間の集大成とした。

○留学生の退学については、主にコロナの影響により学費の支払いが滞って退学せざるを得ない学生が数名でた。

○具体的な支援については、国から10万円の緊急支援金を14名が獲得、また職業実践専門課程の学生として毎月48000円を得ている学生1名、民間の留学生用30000円を得ている学生が1名いる。食の支援として、国の支援と当校で折半して数回にわたって食料支援、またコロナにかかり外出もままならない学生にはカップラーメンなどを宅配した。

② 今後の改善方策

○留学生の就職指導を本格化させ、ハローワーク（大垣、名古屋）の登録から始めて、面接指導や履歴書の書き方も行っている。しかし専門学校なので就職先や職種が限られている。（ファッション科では主にデザイナー、情報デザイン科ではITエンジニア）専門でしっかり教えることはもちろんであるが、「特定技能」という専門とは直接関係がないが日本で就職したい学生のための職業の就職指導も並行して行う。日本人については、今年度のコロナの影響が残り、来年度も就職がきびしいことが予想される。しかし多くの資格をとり、履歴書に書いて社会にでていこう、という方針に変更はないので、積極的に挑戦させたい。今年度も特に「企業研究」の時間に先輩などの成功体験を聞かせたり、セミナー講師を招聘して（オンライン）お話を聞かせたりして、チャレンジする気持ちを起こさせた。来年度もさらに進めていきたい。

(5) 学生支援

評価項目	自己評価	
就職に関する支援体制は整備されているか。	4	ハローワークと十分連携している。来年度も留学生については名古屋外国人雇用センターと連携する。
学生相談に関する体制は整備されているか。	2	常に担任が声をかけて気に掛けるようにしている。留学生に対しては十分とは言えないので、職員全員で相談にのっていく。
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	2	国からの補助金申請、学費納付の猶予などは行ったが、コロナ禍のために退学した学生がでた。奨学金の充実を、学習への取り組みを強めるという意味も含めて図りたい。
学生の健康管理を担う組織体制はあるか。	3	留学生に体温計を貸与、消毒薬配布を行い、体調の悪い学生の連絡体制をとった。熱が高い学生に対しては念のため出校停止とした。
学生の生活環境への支援は行われているか。	2	近くに学生用としてアパートを借り受けたが、想定のように入居してきた学生は少なかったため、今年限りで廃止する。名古屋から通学してくる学生が多く、名古屋まで家庭訪問をした事例があった。
保護者と適切に連携しているか。	2	日本人の保護者とは連絡を常に行っている。留学生は保護者の代わりに「学費支弁者」がいるが、他国愛中のため連絡は難しい。
卒業生への支援体制はあるか。	3	学校を訪問してくる学生は歓迎し、母校意識を高めている。留学生が卒業するので、ラインなのでようすを聞いていきたい。
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか。	3	アパレル業界、IT業界のニュースは常に学生に知らせ、ビジネスパーソンとしての必要な教育を行っている。
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	2	ファッション科においては清凌高校との合同ファッションショーを行っていたり、職員も共通で教えている。情報デザイン科ではオープンキャンパスでITに興味のある学生に対してさまざまな情報を流している。しかしキャリア教育という限定的な意味では十分ではない。

① 課題等

○感染対策を徹底させるため、マスク着用・手洗い指導、毎日の検温はもとより、学生に体温計貸与、持ち運びのできる消毒剤を持たせた。またラインでの連絡を確実にし、熱があつて感染が疑われる学生は登校停止とし、病院に行かせた。対策は行っていたものの、数回休校をしたため、教育内容の変更を余儀なくされた。コロナ禍の中、留学生は学費をアルバイトに負っている部分が大きく、特に学費の未納が目立った。国からの給付金等の事務を確実にしたり、支払い計画の相談にのって、少しでも学生の不安をやわらげるようにしたが、一部の学生の退学はふせげなかった。

○経済的に苦しい学生に対して十分な支援ができていない。アルバイトは日本での社会経験を積む良い機会なので奨励しているが、学習に悪い影響がでるといけないので、管理を行っていく必要がある。

② 今後の改善方策

○学生の学費負担が少しでも軽減されるように、今後も県に対して補助金の増額などをお願いしたい。

「学生サポート No1 を目指して」をスローガンとしているので、これからも面談などこまめにやっていきたい。

○同じ法人である清凌高校とは常に連携している。またファッション科は、県内の同系統の学科をもつ高校とはいつも協力しているので、今後も学校訪問を通して、「顔の見える」関係性を構築していく。

(6) 教育環境

評価項目	自己評価	
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。	3	マックをはじめパソコンやミシンを整備した。校舎が狭いのが難点であるが工夫して対応している。
学内外の実習施設、海外研修等について十分な教育体制を整備がなされているか。	2	学外に施設はないので、毎年工場見学などを行っている。今年はほとんどできなかったのを、来年度実施できるようにしたい。
実習室の衛生管理はしっかり行われているか。	4	コロナ禍の中、消毒は徹底して行っている。
実習室、普通教育、自習室等施設内の空調設備は十分か。	3	換気に注意して授業を行った。夏季には校舎が非常に暑くなるので、冷房で対応した。
防災に対する体制は整備されているか。	3	毎年避難訓練を行っている。熱源としては電気を使用している。アルソックと契約し、防犯カメラも稼働している。

① 課題等

○新校舎はやや手狭であり、今年度は学生が増えたので密となる場面があった。旧校舎も活用して、工夫が必要である。

○避難訓練を、本校の教頭の協力で今年も行った。留学生も真剣に取り組んだ。ビル火災は大変恐ろしいので、火の始末には最大限の注意を払っていきたい。

② 今後の改善方策

○学生にとってできるだけ学習環境を整え、当校で誇りをもって学べるようにしていきたい。また職員が増加するので職員室の整備も必要である。

(7) 学生募集と受入れ

評価項目	自己評価	
学生募集活動は、適正に行われているか。	2	留学生については指定校制度をとっているのですが日本語学校の先生方は協力的であった。しかしコロナのためにそもそも来日していないので入学してくる学生が減った。来年度も学生が少ないので、募集活動の見直しを行っている。
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか。	3	必ず学校見学をして、実際に授業を体験してから入学試験を受けてもらうことにしている。
学納金は妥当なものとなっているか。	4	私費留学生については早期入学免除や月別納付など便宜を図っている。授業料と預り金を区別している。

① 課題等

○留学生を受け入れる体制を整えて 2 年目、昨年度は順調に学生の確保はできた。当校在校生が口コミ（SNS）でたくさん志望者を呼んでくれた。ただし今年度はそもそも日本語学校の学生が少なく、また退学者もでるので

(学費がはらえない、または進路変更) 学生募集を職員全員で行う体制にした。

○高校にはあらゆる機会をとおして当校の良さを広報している。岐阜専門学校各種学校連合会でアピールビデオを作成したり、パンフレットの充実を図っている。

② 今後の改善方策

○留学生はもちろんだが、日本人についてもさらに当校の教育活動の状況をしっかりと伝えていく。卒業生をスタッフとして雇用するので、たとえば広報活動に同行させるなどして、当校の魅力を直接伝えていきたい。

(8) 財務

評価項目	自己評価	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。	4	学園全体として安定している。
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。	4	学園全体として安定している。
財政について会計監査が適正に行われているか。	4	適切に行われている。
財務情報公開の体制整備はできているか。	4	特に職業実践専門課程の認定の要件となっているのでHPで公開している。

① 課題等

○新校舎を増設、施設・設備も増やした。長期的な視点に立って経営を行っていきたい。

② 今後の改善方策

○留学生数が減った場合でも健全な財政であるように計画性をもって運営したい。

(9) 法令等の遵守

評価項目	自己評価	
法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。	4	法令順守を第一に経営を行っている。
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。	3	HPやパンフレットの肖像権は学生に確認をとっている。職員室のロッカーを整備したい。
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか。	4	行い、学校関係者評価委員会でも協議している。
自己評価結果を公開しているか。	4	HPで公開している。

① 課題等

○コロナ禍ではあったが、授業数を適正に確保し、学生の出席率も入国管理基準をしまわらないように十分に注意してきた。そのため、「優良校」と認定され、ビザ更新が1年→2年に延長されて、学生への負担が減った。

② 今後の改善方策

○個人情報の管理について、紙媒体のみならず、データの流出に気をつけたい。さまざまな機会を通して職員に周知徹底している。

(10) 社会貢献

評価項目	自己評価	
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。	3	大垣市から「トリックアート展」に出品を依頼されて出品した。「時代衣装」を留学生が着る、という企画を行い、取材を受けた。「Tomoni つながる和綿プロジェクト」でモデルとして参加した。
学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。	2	学校で奨励したわけではないが、ミャンマーの学生が自国の救済についての集会に参加した。
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含	2	依頼があり、パンフレットの作成、学習内容調整、

む) の受託等を積極的に実施しているか		講師の調整とすべて整えたが、受講者が不足したので開講できなかった。今後も依頼があれば、行う予定。
---------------------	--	--

① 課題等

○本法人は「中日文化センター」として長い間地域の文化の中心として貢献をしてきたと自負している。今後も変わらず地域と共に歩んでいきたい。

○コロナ禍でほとんど行事ができなかった。東京ゼミ旅行→中止、社会見学→岐阜公園、学園祭→オープンデイとして専門課程独自、大垣ファッションフェスティバル→中止のため、スタイル画コンテスト（当校2年生が最優秀賞受賞）、大垣フォーラムホテルでのビデオ撮影、卒業式での披露、となった。来年度できる環境が整えば、学園祭やOFFは地域や他の学校からも喜んでいただけるように実施していきたい、

② 今後の改善方策

○留学生が地域の方から認められるためには、まずあいさつなど自分からしていくとか、時間を守るとか、ゴミ出しのルールを守るなど日本では当たり前のことを当たり前に行うという指導が必要である。学内での指導を通して、地域にも認められる人材を育てたい。

4 総合的な自己評価結果

評価基準				
適切	4	ほぼ適切	3	やや不適切 2 不適切 1

1	教育理念・目標 人材育成等	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか。 学校の理念、目的、育成人材像、特色、将来構想などが学生・保護者等に周知されているか。各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3
2	学校運営	運営方針に沿った事業計画が策定されているか。人事、給与に関する規定等は整備されているか。業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか。教育活動等に関する情報公開が適切にされているか。情報システム化等による業務の効率化が図られているか。	3
3	教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか。 キャリア教育・実践的な職業活動の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか。 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか。 関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか。	3
4	教育成果	就職率の向上・資格取得の向上・退学率の低減が図られているか。 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか。	2

5	学生支援	就職に関する支援体制・学生相談に関する体制・学生に対する経済的な支援体制は整備されているか。 保護者と適切に連携しているか。 卒業生への支援体制はあるか。 高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか。	3
6	教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか。 防災に対する体制は整備されているか。	3
7	学生募集と受入れ	学生募集活動は、適正に行われているか。 学納金は妥当なものとなっているか。	3
8	財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか。 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか。 財政について会計監査が適正に行われているか。	4
9	法令等の遵守	法令、専修学校設置基準の遵守と適正な運営がなされているか。 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか。 自己評価の実施と問題点の改善し自己評価結果を公開しているか。	4
10	社会貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか。 学生ボランティア活動を奨励、支援しているか。 地域に対する公開講座・教育訓練積極的に実施しているか	2